

Library News



湘南学院高等学校図書企画委員会発行2026vol.2



もくじ

目次…3P

小説のキーアイテム
集めました …5P～10P

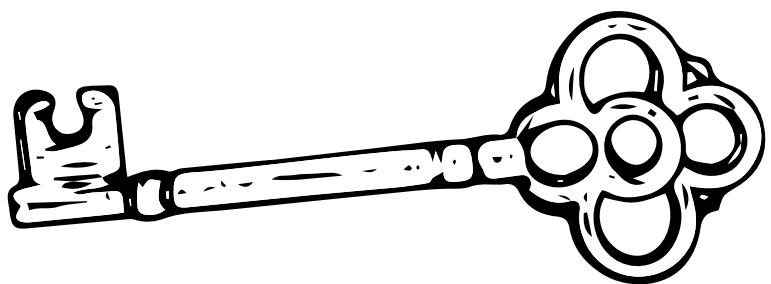
POP紹介…11P～12P

新着図書紹介…13P～18P

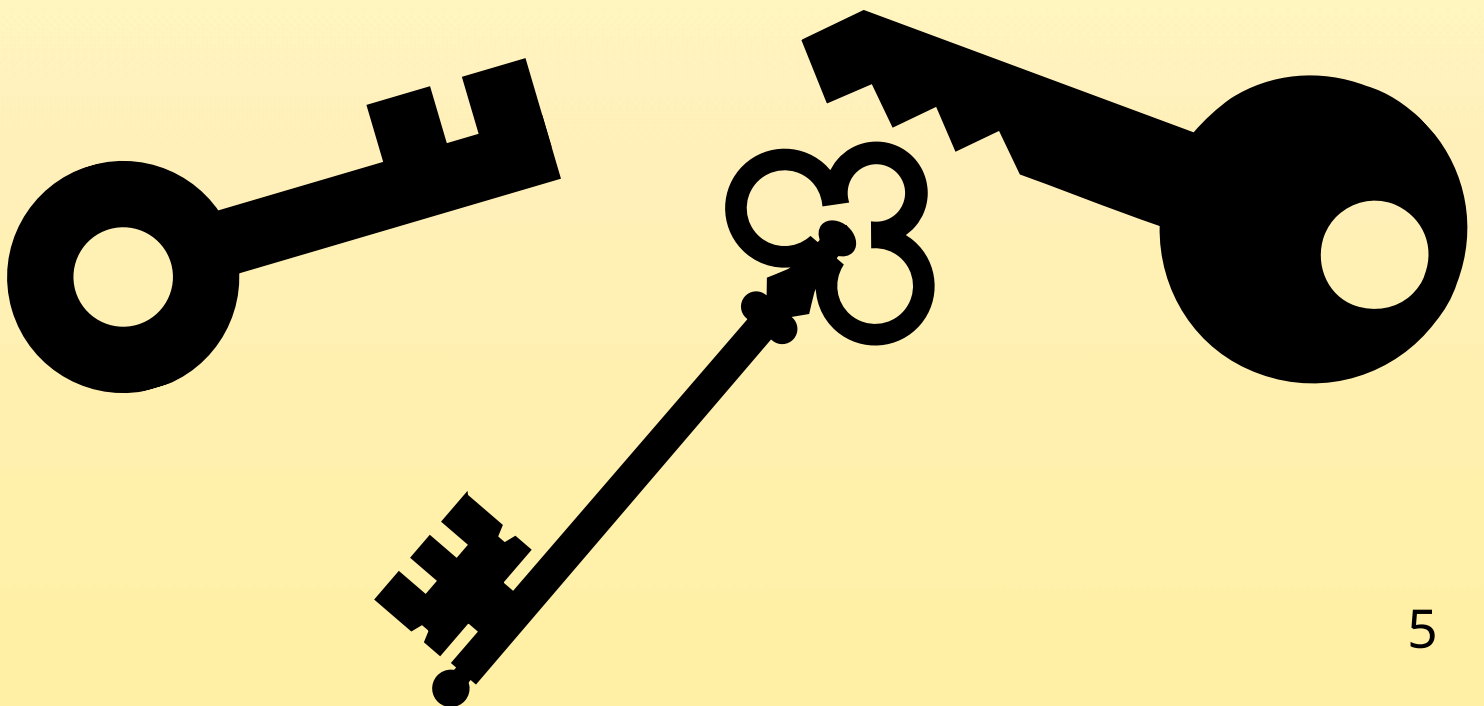
小説…19P～24P

編集後記…25P





小説の
キーアイテム
集めました



キーアイテム「レモン」



『ちくま日本文学全集24』

梶井基次郎

この本の中の『檸檬』という小説の中のキーアイテムがあります。題名にもある通りレモンがキーアイテムになります。主人公は様々な不吉と結核という病気により気分を落ち込ませていたのですが、レモンに出会ってからその不吉というのを解消させるという内容の話になっています。この作品の醍醐味は完結の仕方にあると思うので最後までぜひ読んでみてください。



←おおよそ実寸大の
レモンの写真

こちらからレモンを
購入することができます。→
香りや手触りを体験して
みてください。



キーアイテム「コーヒー」



『コーヒーが冷めないうちに』 川口俊和

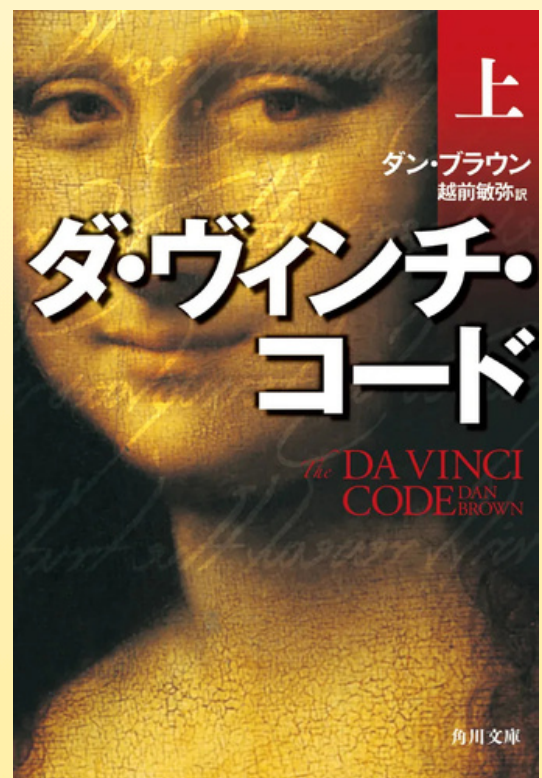
コーヒーが冷める間だけ過去に戻れる喫茶店で、現実を変えられずとも心を変え、前を向く4人の女性の奇跡の物語です。



キーアイテム「聖杯」

『ダ・ヴィンチ・コード』 ダン・ブラウン

この話のキーアイテムは聖杯なのですが意味合いが変わっています。本当は何なのかは実際に読んで確かめてみてほしいです。話の内容としては、館長の死亡をはじめにレオナルド・ダ・ヴィンチの絵画の謎など様々な謎を解いていくミステリー小説です。ぜひ、一度読んでみて聖杯の意味を確かめてみてください。



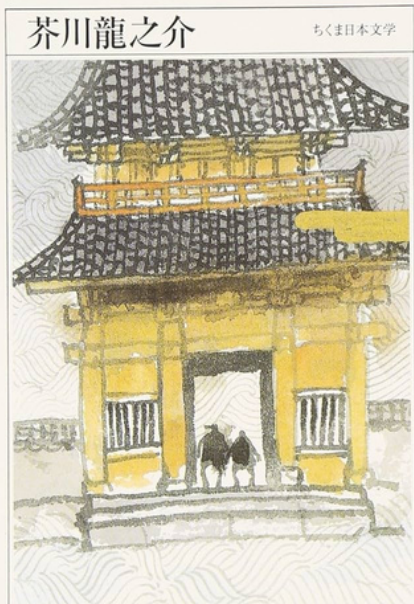
キーアイテム「みかん」

『ちくま日本文学全集1』

芥川龍之介

この本の中の『蜜柑』という小説の中にキーアイテムのみかんが出てきます。

『檸檬』の時と似ており、主人公はみかんを通して成長しています。かなり終盤までみかんは出てこないのですが、それまでの主人公の心情や情景は自然とネガティブな気持ちにさせられるので最後どのようにネガティブな気持ちを晴らすのかは見物です。



おおよそ実寸大の→
みかんの写真



←こちらからみかんを
購入することができます。
香りや手触りを体験して
みてください。

キーアイテム「りんご」



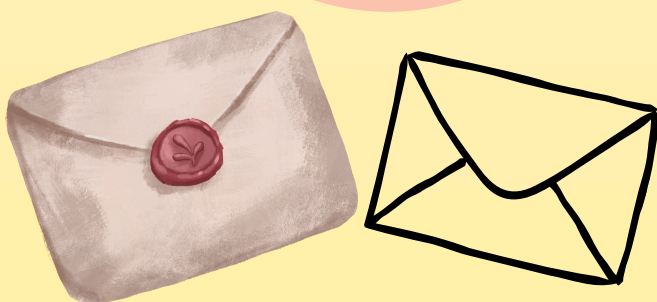
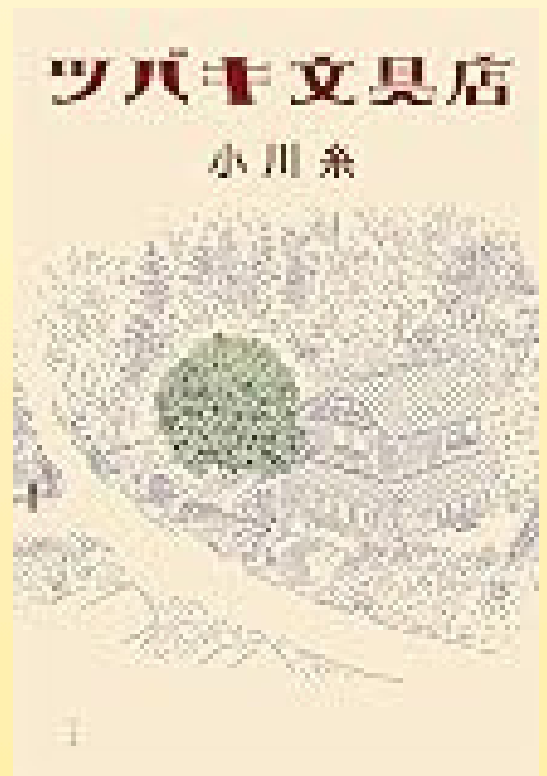
『変身』 カフカ

この話ででてくるキーアイテムはレモンやみかんと違い、主人公を貶めるために使われてしまいます。突然巨大な虫になってしまった主人公とその家族の痛々しい風景が描かれています。

キーアイテム「手紙」

『つばき文具店』 小川糸

題名が文具屋なのに郵便局の方がキーアイテムとして活躍しそうな手紙がキーアイテムの一見すると不思議な小説ですが、内容としては手紙の代筆を頼まれた文具屋の主人公が手紙を通して成長していく話です。





←おおよそ実寸大のりんご
の写真

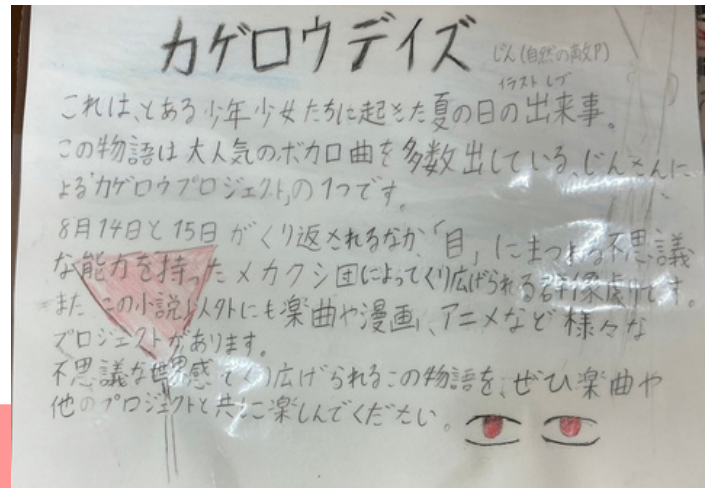
The background features a light yellow gradient. Overlaid on this are several stylized autumn leaves in shades of orange, red, and yellow. These leaves are arranged around the central text, with some appearing to be part of larger, flowing, curved lines that sweep across the page.

POP紹介



題名 『カゲロウデイズ』

作者 じん



あらすじ

目にまつわる能力持ちの少年少女たちの物語。8月15日に「メカクシ団」としてその少年少女たちは集結し、自分たちの能力の謎に迫っていく。

しかし彼らは進んで能力を使おうとはせず、むしろ使いたがらない。

孤独を抱え、元に戻ろうと苦悩しながら模索していく。そんな物語です。

ぜひ一度ご一読を！



新 着 本

紹 介

図 書 委 員 の
お す す め 本

湘南学院高校

おすすめ1



『また、同じ夢
を見ていた』

住野よる

『君の臍臓をたべたい』でお馴染み住野よるさんの作品の『また、同じ夢を見ていた』。主人公の小柳奈ノ花は小学生、「人生とは～」が口癖の変わった女の子。

ある日、草むらで一匹の猫に出会った。そこから話は加速していく。不思議な過去を持つ女性たちの出会いが奈ノ花を変えていく。不思議なお話。

続きはぜひご自身で。

おすすめ2



『わたしの 美しい庭』

風良ゆう

小学生の百音と大人の統理は二人暮らし。マンションと一緒にマンションの屋上神社をやっています。二人は血が繋がってないので"変わっている"ともよく言われます。でも、楽しい日々を過ごしています。そして、二人が住む神社には断ち物の神様が祀られていて悪縁、気鬱を断ち切ると有名です。それを叶えるために"いろんなもの"が心に絡んできます。続きはぜひご自身で。

おすすめ3



『いとエモし。』

koto

◆エモってなんだろう？感動した時？泣いた時？それとも、叫んだ時？この本の作者は「エモい」を平安時代の「いとをかし」と同じと考え、「エモい」とは、心が揺さぶられた時に感じるものと定義しています。その「エモい」を探すために、日本の古典文学を大解読。万葉集、新古今和歌集、方丈記、枕草子などが大集合。

◆皆様ぜひ「エモい」を感じてみない？

おすすめ4



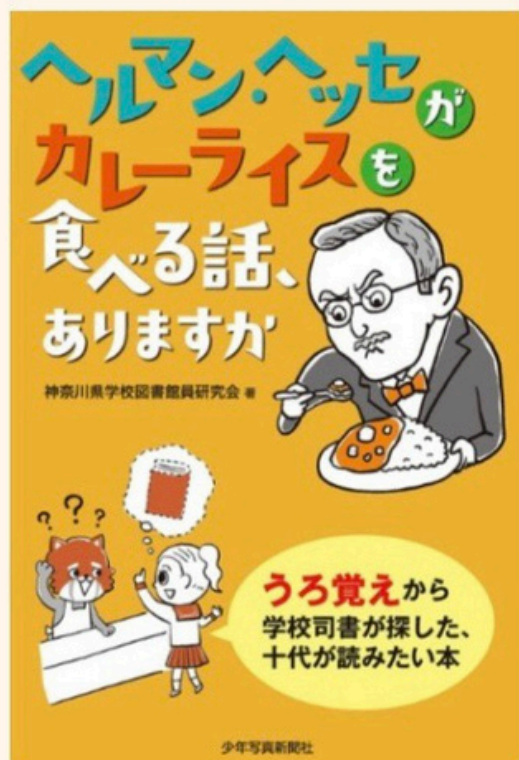
『恋とか
愛とか
やさしさなら』

一穂ミチ

第22回本屋大賞第8位受賞作である、一穂ミチ著の『恋とか 愛とか やさしさなら』。

◆男と女の欲望や、他者を信じること・理解する◆
◆ことの難しさを描いた、男と女の差のブラ◆
ックボックスにふれた新境地の新しい一冊。
続きが気になる方はぜひご自身で。

おすすめ5



『ヘルマン・ヘッセが
カレーライスを食べ
る話、ありますか』

神奈川県学校図書館員研究会

読みたい本の名前が分からずなんとなくの
記憶だけで本を探したことはありませんか。
そんな悩みを凝縮されたのがこの本です。ヘ
ルマン・ヘッセがカレーライスを食べる話は
実際にはないのですが、なぜかこの質問を
した人がいるらしいです。その理由は実際に
読んで確かめてみてください。



短編小説



ワン コーシン

アメリカのとある港町の四番通りのとある薄橙色の屋根の家の夕方。シルバーは家出の計画をしていた。昼、シルバーはボストンという友達の仇を討つと覚悟したためである。ブルドッグであり小太りなボストンは金持ちの飼い犬でありながら幾度も脱走を計画しているなんとも非合理的な犬である。そんなボストンは昼間シルバーに話をしてきた。汗を垂れ流しながら垂れた目で

「なあ、シルバー助けてくれ」

と言ってきた。シルバーは

「また、脱走したのか」

と言う。シルバーは初め茶化すように剽軽なボストンに質問した。すると健常を装っていたボストンの様子はだんだん憂鬱になって

「さっき、一番通りでマドレーヌを作っている工場に行ったんだ。そこだと廃棄された甘くておいしいザラメのかかったマドレーヌの破片が食べられると聞いたからね」

ここで一旦息をおき速度を落としてまた一言

「でも、そこはすでに猛犬の縄張りだったんだ。僕、弱いからすぐにやられちゃったよ」
とそこで話を終わらせ病人のような白い顔をしたまま倒れ込み、シルバーに見せないようにしていたのであろう横っ腹の引っかけ跡を見せてシルバーを見つめていた。

「大丈夫か、ボストン！」
シルバーは危機感を感じるとともに申し訳なさそうに。

「ごめんよ、ボストン。君がそこまで弱っていたのを気づかないでいたよ」

と、謝罪をした。ボストンは、横腹にガーベラの花びらのような形をした爪でひっかかれたような傷を負っており、立つのもやっとな状態で戻ってきていたのである。そして、夕方、飼い主が寝る深夜での脱走を計画し、どのようにボストンを傷つけた猛犬に復讐するか作戦を練っていたのである。ボストンの話から、その猛犬というのはケルベロスのような姿であるが、ソクラテスのような頭脳を持

っているらしく、他の犬が縄張りに入った瞬間を襲ってくるのではなく、少し中に入った犬を下僕たちの犬に捕まえさせ、自分がトドメを刺すというなんとも非道なことをしているらしい。ボストンは少し小太りのため、脂肪が内臓を守ってくれていたため助かった。少し皮肉なことではあるが、死ぬよりは幾分かましであろう。シルバーはボストンの対義語のような体で、障害物競走で1位になるくらいの剛鉄のような肉体をもっている。そういうのもあり、ボストンは助けを求めに来たのだろう。シルバーはこの肉体を活かした体当たりを重視した作戦を2つ立てた。1つ目が出僕たちの犬は比較的縄張りの外側にいるため捕まえられないよう、下僕たちを先に倒しておいてからボスである猛犬を倒すのである。しかし、下僕たちの数を知らないため、下僕たちを倒すのに時間がかかってしまったら。ボスに気づかれて負けてしまう。2つ目は、縄張りの中まで勢いよく進み、下僕たちに捕まらないようにボスである猛犬をなるべ

く早く倒すという作戦である。こちらのほうが下僕たちの核がいなくなるため、下僕たちを従わせることができる可能性がある。

深夜になりシルバーがよく見ていた薄橙色だったはずの屋根が薄紺色に変わっていた。シルバーは家を飛び出し一番通りまで続く一本道に連なる街灯の円錐に輝く光を一つひとつたどり、三番通りに出た。ここでシルバーは2つ目の作戦の欠陥に気付いた。もし猛犬を倒したとして、下僕たちを従えなかったときのことを考えていなかった。あれだけボストンの復讐の意志を持っていたのに突然背中に冷や汗をかいてしまった。そうしたら、1つ目の作戦の方がまだ勝算があるかもしれない。と、考えているうちに二番通りに来てしまった。もう一番通りのマドレーヌ工場まで目と鼻の先である。作戦なんか立てたとしても実際に行かないと分からないこともある。シルバーはどんな敵襲にも備えて、走り始めた。目は万年筆で書かれたインクのように細く、手脚の筋肉は風船のように膨らみ、レンガのように硬くなる。シルバーは冷や汗な

どかけなくなるほど、流れる血を元来とした熱を帯び体温はタンパク質の変性を感じられるほど熱くなっていた。First Streetと書かれた、ピサの斜塔のようにふらつきながらも安定して立っていた看板を曲がり、行進していたシルバーの足はいつの間にか、猛犬の縄張りに入っていた。しかし、そこには下僕の犬、ましてや猛犬すらも目を充血させて倒れ込んでいた。マドレーヌは犬には毒だったらしく、シルバーは復讐する必要がなくなった。シルバーはForce Streetと書かれた、自由の女神のように荘厳に直立した看板を曲がり、街灯が照らす潔白のコンクリートを歩いた。

終

編集後記

編集長のIです。編集長になってはや2年、だいぶ編集はスムーズにできました。みんなも記事作りに協力してくれてとてもありがたかったです。これからも本の情報をお届けできるように頑張ります。

制作:図書企画委員会 広報班

(I, M, H)

編集担当:I

イラスト:I

新着図書:M

POP紹介:H

小説:I

発行:湘南学院高等学校 図書企画委員会

発行年月日:2026年9月30日

Thank you